第３学年　社会科の実践

１　単元名　　わたしたちの市　小田原

２　単元目標

○身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。

○身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを考え、考えたことを表現する力を養う。

○身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情を養う。

３「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
中学年ブロックテーマ　「追究する力、仲間と支えあう自分」
・　自分の問題をとことん追究する姿
・　仲間と協働して追究する姿

「聴くこと」については、「友達の考えを聞いて、一度自分の言葉に置き換えてみよう。」「友達の考えを聴いて、なんらかの反応をしよう。」「友達の意見を聴くことが、友達を大切にすることだ。」と、何度も繰り返し伝えているところである。「話し手の時、なんらかの反応をしてくれることが嬉しい。」と感じる子が増えてきている。そこで、相手の話を聴くことで発見する楽しさや考えが深まるよさを味わわせていきたい。

「話すこと」では、ていねいな話し方をするということや姿勢や声の大きさに気をつけて発言できるようになることをめざし学習を積み重ねている。しかし、友達の考えにすぐに反応し、つぶやいてしまうため、座ったまま小さい声のため全体に伝わっていないことがよくある。反対にまた、全体の前で大きな声で話せる子でも、「まず、自分が話したい！」という気持ちの方が大きく、一方通行になってしまうこともある。また、自分の考えが持てずにいる子、自分の考えに自信が持てずに発言できない子どもいて、発表には、個人差がみられる。マスク越しの声は聞き取りにくく、声の大きさには、限界があると感じているところである。そこで、まず、自分の考えをもたせるために、絵や写真などを見ながら、気づいたことを自由に付箋に書いたり、絵や写真を比べながら違うところを見つけさせたりして「考え」を言葉にする楽しさを味わわせたい。そして、それを少人数のグループで共有することで、自信につなげていきたい。思ったことを発言できることに重点を置き、素直な思いを引き出しみんなに認めてもらうことで共に学ぶ楽しさを味わわせたいと考えている。また、自分の思いをどう話すと相手に伝わるかということを意識させていきたいとも思っている。

４　単元と指導について
＜単元について＞

本単元は、小田原市の特色ある地域について学習する。学習指導要領では、「都道府県内における市の位置、市の地形や土地の利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解できるようにする」とある。そこで、自然、地形、土地利用、主な公共施設、交通、古くから残る建物の様子などについて調べる際、写真やグラフ、パンフレット等の資料の読み取りや町の人に話を聴く活動を通して、自分たちの校区の様子と比較し似ているところ、違うところを見つけながら思考させていく。さらに、そこからわかる人々の暮らし

に目を向けていく。また、まち探検で学んだ「社会的な見方や考え方」を振り返りながら、資料を活用して学ぶ技能を身につけていく。これらの学習により、それぞれの地域の特色について大まかにとらえることをねらいとしている。

そこで、「違い」を意識させた活動を行わせることで、これまでなんとなく感じていた地域の良さを地形・土地の利用・交通などの視点で捉えさせるようにしたい。そのためには、生活の中で個々が体感的に得ていた地域の良さを、ことばや数値といったもので表現し、児童同士がそれらを使って、話し合うなどの活動を行っていくことが大切になる。問題把握→予想や仮説→調べる→まとめる→友達の考えを交流→考察といった一連の問題解決の学習の流れを設定し、特に予想や仮説をもつ段階、友達の考えの交流から考察へと向かう段階に児童の考えを言語化させ、地域の特色を捉えるとともに、郷土を愛する心も養えると考えている。

＜指導について＞

これまでの「わたしたちのまち」の学習では、「自分たちのまちは、お店も多く病院もあり、とても便利なまち」「海もあり、気持ちのよいところ」「お城やお寺があり昔は、とてもにぎわっていたまち」と調べたことを基に考え、自分たちのまちはとても暮らしやすいまちだと気づくことができた。

本単元では、学習の初めには、子どもたちはわたしたちのまちについて、自由にあれこれと思いを巡らすきっかけにして、南足柄市のふるさと自慢からスタートする。となりの南足柄市に負けないくらい、自分たちの市のよいところを見つけたいという思いをもたせることから「小田原市って、どんな良いところがあるのだろう？」という学習課題が子どもたちから自然と生まれてくるだろう。小田原市と南足柄市の地図を見比べる中でいろいろな比較対象物を見つけ「線路が多い」「川の近くに工場がある」「山に果樹園が多い」などの気づきから、土地の利用の仕方や交通などに目を向けていくだろう。そして「どうして？」という疑問が具体的に「どうして線路がいっぱいあるの？」「どうして果物が多いの？」「どうして川に工場が多いのかな？」という言葉になり、調べたいという思いにつなげたい。

前の単元では、子どもたちが持った疑問に対して、お寺がたくさんある理由を保護者でもあり、住職さんでもある落合さんから伺っている。本単元でも、調べてもわからないことに出合ったときには、そのことをよく知っている人に聴いてみたいという思いを強く持つだろう。しかし、コロナ禍でのインタビューは控えたい。そのため、家族やよく知っている人に聴いたことを資料とし、その資料から、自分たちの疑問を解決させていく。自分の疑問が解決していく楽しさを味わいながら、自分の問題をとことん追究する姿をめざしたい。

一方で、小田原には良いところがたくさんあるのに人口が減ってきているということも取り上げたい。人口のグラフを読み取る活動を通して、「どうして、こんなに良いところがたくさんあるのに、人口は減ってきているの？」と疑問をもち、小田原市の取り組みを調べていく。そして自分たちができることは何だろう、と考え小田原市を大切にしたいという思いをもたせたい。自分の予想と調べてわかったこと、小田原市の良さと人口が減ってきているという現実のギャップなどから次々と連続する追究をし、おたがいに考えを共有しながら、仲間と協働して解決していくだろう。

初めての社会科ということで、白地図や地図から、自分の考えを付箋に記入し、わかったことや考えたことをノートにまとめるという活動をしていく。そして、最後にはわかりやすいノートのまとめ方を身につけさせていきたいと考えている。

本時では、「なぜ、線路がいっぱいあるのかな。」という学習課題に対して、調べてわかったことを地図や写真・絵など資料を用い、伝え合う姿をひびき合いの姿としていきたい。また、どの子も自分の考えを意思表示できるように、マグネットを活用したり、グループで考えを共有する場を作ったりして、関わりながら学ぶことの面白さに気づかせたい。また、考えの根拠もあわせて発言することや友達の考えを聴くことで、ものの見方がより深く広くなることを実感できるよう声かけをしていきたい。

5　単元構想

３年社会　「わたしたちの市　小田原」　全１５時間　本時　１０時間目

単元目標	
	○身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。
	○身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを考え、考えたことを表現する力を養う。
	○身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情を養う。

駅前

わたしたちのまち
・わたしたちのまちには、よいところがいっぱいあったね。
・お店や病院などがあり便利だし、海もあって気持ちもよいから、暮らしやすいところだね

① 導入　わたしの　ふるさとじまん
・南足柄市の出身の先生にふるさと自慢をしてもらう
足柄茶（農産物）　アサヒビール（工場）
夕日の滝（名勝地）　大雄山（歴史的な建物）
大雄山線（交通）

夕日の滝

海

小田原城

アサヒビール工場

大雄山駅

大雄山最乗寺

かまぼこ　小田原城の梅もぎもしたね。

・南足柄市っていいところがいっぱいあるのね。いいな。住みたいな。
・小田原にも、たくさんいいところがあるよ。
・かまぼことか、ひものとか、小田原城とかいっぱいあるよ。
・もっと、良いところがあると思うよ。
・お城があるんだね。　・梅が有名だよ
・魚がたくさん捕れるんだよね　・人も大勢いるよ
・新幹線も止まるよ
・もっとしりたいな
・小田原市のもっと良いところを知りたいな
・どんな良いところがあるんだ。

「小田原にはどんな良いところがあるのか」と疑問や考えを共有させる

小田原市のことを、もっと知りたいな。

・どうやって調べたらいいかな。
・地図で調べられるよ。
・地図の中にある地図記号を見るとわかるかも
・地図を見てみたらいいよね。
・小田原市の地図を見てみたいな。

「小田原市」について、関心をもち、学習課題を作る。（表現）

② ③　小田原市の地図で調べてみよう

小田原市の地図の地図記号や土地の使われ方から、気づいたことをノートにまとめることができる。（表現技能）

・地図で見ると、果物畑とかあるよ。
・小田原のよいところを見つけたい。
・小田原市って、結構広いな。
・川の近くに工場があるね。道路の近くにもあるよ。海の近くにもあるよ。固まっているんだね。
・外側に果樹園がたくさんあるね。
・南足柄市と比べると線路がいっぱいあるよ。（JR東海道　新幹線　小田急　箱根登山　大雄山　御殿場）
・海の近くには、かまぼこ屋さんが多い。
・真ん中に、お店が多い。
・お店を囲むようにして家が多い。
・学校が多い。
・川の近くに田んぼも多いね。

小田原市の良さについて意欲的に調べようとする。（関心・意欲・態度）

なぜ、川の近くに田んぼが多いのだろう？

なぜ、市の外側に果樹園が多いのだろう？

なぜ、線路がいっぱいあるのだろう？

なぜ、川・道路・線路・海の近くに工場があるのだろう？

これまでの学習で得た知識を根拠に予想を立てることができる。（表現技能）

・「なぜ？」を解決したい。
・すぐにわかりそうなものから、調べていきたいな。
・①田んぼ②果樹園③線路④工場の順番で調べていきたいな。

はじめて、資料から読み取る活動をするため、ホームページから抜粋した資料を提示し、「分かったこと」をみんなが気づけるようにする。

④　⑤　どうして、川の近くに田んぼが多いのだろう

はじめて、「分かったこと」から「考えたこと」を考えさせるため、これまでの学習を根拠に「人の生活」という視点で考えを持たせるようにする。

資料を根拠にして、分かったこと・考えたことをまとめることができる。（表現技能）

＜予想＞
・水が必要だから、すぐにたくさんの水が使える
・生き物がいるから、生き物が絶滅しないように
・太陽がよく当たる

＜分かったこと＞
・川には、天然の栄養がたくさんある
・水があるから、雑草が生えにくい
・余分な栄養は、川で流される

＜考えたこと＞
・育ちやすい　必要なものが全部あるから　便利
・いつでも食べられるため　たくさんとれる
・安全・きれい

聞き手や伝える相手を意識して、考えを発言できるように促す。

小田原市のについて、川の近くの土地の使われ方について理解することができる（知識）

⑥ ⑦　どうして、市の外側にみかん畑が多いのだろう？

調べる活動では、ホームページから抜粋した資料や本「私たちの小田原」を提示する。また、家の人に聞くためにどんなことを聞けば良いかを確認し、何が分かるとよいかキーワードを一人一人が理解できるようにする。

資料を根拠にして、分かったこと・考えたことをまとめることができる。（表現技能）

＜予想＞
・外側に山がある
・山は、日がよく当たるから　山には栄養や水があるから
・海の風があたりやすい　温度の差があるから
・適しているからたくさんとれる
・おいしいし、便利だから

＜分かったこと＞
・太陽がよく当たる
・水はけが良い・たくさんとれる
・昔、観光客にたくさん売れた

＜考えたこと＞
・育ちやすい　必要なものが全部あるから　便利
・いつでも食べられるためということやたくさんとれるための工夫がたくさんある
・安全・きれい
・観光客に喜ばれたから、たくさん作られるようになった。

わたしたちのおだわらを見て、果物畑の様子を読み取りながら、理解を深める

小田原市のについて、山側の土地の使われ方について理解することができる（知識）

絵や写真、実物を見ることで、実感を伴わせるようにする。

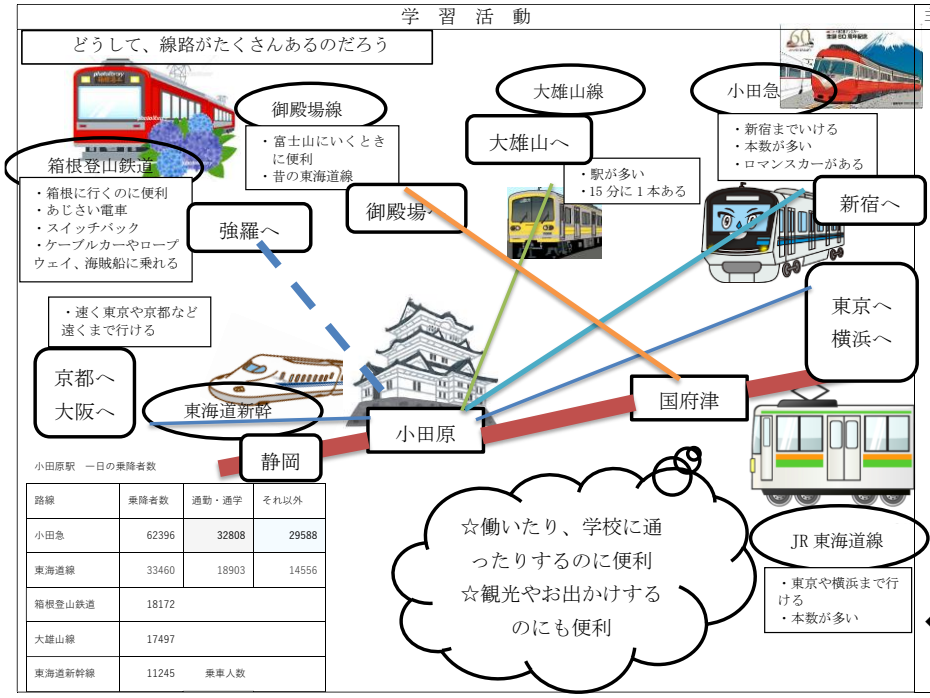
6　本時について

（1）本時目標　「どうして、線路がたくさんあるのだろう」について考えたことを手掛かりにして、近隣の地区や東京や横浜への通勤通学が便利であること、近くの観光スポットや京都や大阪など遠くへ旅行も楽しめるという良さがあることに気づくことができる。

（2）本時展開

学　習　活　動

どうして、線路がたくさんあるのだろう



小田原駅　一日の乗降者数

路線	乗降者数	通勤・通学	それ以外
小田急	62396	32808	29588
東海道線	33460	18903	14556
箱根登山鉄道	18172		
大雄山線	17497		
東海道新幹線	11245　乗車人数		

主な支援・留意点　◆評価【観点】

- これまでの学習を振り返り、路線と終点を確認する
- 学習課題について調べてきたことをもとに、自分の考えを確認するために 3 人グループで話し合わせる。
- 自分の考えを主張するだけでなく、友達の考えも尊重できるように友達の考えの良さも見つけるようにさせる。
- それぞれの鉄道の良さに視点を当てることで利用目的を考えさせるようにする。
- 小田原駅の乗降者数のグラフから、通勤通学とそれ以外の人が同じぐらい利用していることに気づかせる。
- グラフを見て気づいたことを 3 人グループで確認し、全体の場で自分の考えを伝え合わせながら、鉄道の良さと自分たちの暮らしについて考えさせる。

◆鉄道と人々の暮らし、自然環境と関連付けながら考えを持つことができる【思考】

7　実践を終えて

自分たちの学区は、とても暮らしやすいまちだと気づいたことを、「小田原」という場所に広げていった。社会科を初めて学習する児童は、学習問題に対してイメージできにくいこともあるだろうと考え、南足柄市と比較することで自分たちの市のよいところを見つけたいという思いをもたせた。すると、「小田原市って、どんな良いところがあるのだろう？」と子どもたちから自然と単元を貫く課題が生まれた。また、視点を与えるという意味で、小田原市と南足柄市の地図を見比べ、「線路が多い」「川の近くに工場がある」「山に果樹園が多い」などの気づきから、土地の利用の仕方や交通などに目を向けることができた。そして「どうして線路がいっぱいあるの？」「どうして果物が多いの？」「どうして川に工場が多いのかな？」という言葉になり、調べたいという思いにつながった。

本時については、電車に乗ったことが少ない児童が多いと気づいたため、写真や路線図などイメージしやすいようにしながら、自分たちの生活と結びつけて考えられるようにした。

単元を終えて、夏の教育相談では、「電車に初めて乗せました。子どもたちから話を聴いて、当たり前に利用していただけだったが、小田原駅って、やっぱり便利なんですね。」「小田原から、こんなに色んなところに行けるって、改めて知ったんです。」「子どもと二人で電車の旅をして、こういう時間もいいなと思いました。」「ドクターイエローが小田原駅を通るのを見に行きました。」などたくさんの保護者が話してくれた。社会の授業は、単元が終わったら終わりではなく、生活の中に息づいていると感じた。

＜成果と課題＞

社会科という 3 年生から新しく学ぶ教科を、最初の段階でブロックで話し合いながら進めることで子どもの発達段階や思考の過程や次の学びにつなげるためにという視点など気づくことが多かった。

生活経験を根拠にして、話し合わせたいと考えていたがコロナ禍でもあり生活経験の乏しさから根拠として考えをもたせることの難しさを感じた。また、子どもの経験は点であり、点と点を結びつけていくことが根拠になると気づかせていかなければならないと感じた。